

市民参画の手法について

1. 市民意見交換について

実施時期 : R3.5～R3.7 (都市計画審議会後約2か月)

目的 : 幅広い年齢層の方の意見を頂きたい

コロナ禍での開催 : 会場に多数の人が一同に集まり意見交換することは難しい

2. 主な市民意見交換の手法

手法	メリット	デメリット	主な事例
意見募集型	① パブリックコメント (政策形成への市民意見の反映と、提出された意見への市の考えを示す)	<ul style="list-style-type: none"> 政策形成過程の透明性の向上 意見を提出する際の制約が少ない 広く意見を出す機会を提供できる 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の関心が低い 周知がコスト面から限られる(市政日より、市HP、市施設での配布など)
	② アンケート (調査票を配布し、統計的にとりまとめる事により、市民意識の傾向などを把握する)	<ul style="list-style-type: none"> 年齢、性別など分類した上で無作為抽出するため統計しやすい 意見聴取のポイントを明確化できる インターネットを併用することでより広く収集できる 	<ul style="list-style-type: none"> 反面、誘導ととられる 多くの設問を設けた場合回答率が下がる 市民の関心が低い
	③ ヒアリング (地域住民や各種団体と直接面会し、市民の意見、ニーズ等を把握する)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりに積極的な市民の意見を聞く事ができる より深い意見や提案を聞く事ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の団体や一部の市民だけの意見と捉われる可能性がある 単独計画には有効であるが市の基本方針に対しては対象が膨大となる
対話型	④ 説明会(意見交換会) (事業決定の前に市の考えを説明し、意見交換する。)	<ul style="list-style-type: none"> 手続きの公開性が高い 公開の場で意見をアピールできる 双方向に意見交換ができる ワークショップの併用でデメリットは緩和される 地域別の開催により、地域課題を聞ける 	<ul style="list-style-type: none"> 強い意見に支配されやすい 地域要望になる可能性がある 行政のための説明となりがち コロナ禍でたくさんの方が一同に集まる
	⑤ まちづくりオープンハウス (説明パネルの展示と併せ、担当者による対話形式の説明、意見交換)	<ul style="list-style-type: none"> 個別の意見を出しやすい これまで参加機会のなかった方の参加が期待できる 都合の良い時間に参加できる 意見を掲示することで他の方の考えも分かる 	<ul style="list-style-type: none"> どの程度参加があるかが見込めない 市民同士の意見交換ができない
会議型	⑥ ワークショップ (ファシリテーターの進行のもと、多様な市民が意見を出し合い一定の方向性を見出す)	<ul style="list-style-type: none"> 比較的自由な議論や共同作業で合意形成を図れる 参加者一人一人が問題に向き合える 地域別の開催により、地域課題を聞ける 	<ul style="list-style-type: none"> 当初都市計画マスタープラン(テーマ別ワークショップ) 大久保駅周辺地区整備構想(エリアが限定的) 近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想(エリアが限定的)

3. 宇治市原案

① 全体構想 : ・パブリックコメント(R3.5～R3.6)

※総合計画のアンケート

② 地域別構想

: ・まちづくりオープンハウス(市職員)
・意見交換会

同時開催(R3.5～R3.7)、全9会場

※上記の手法を組み合わせて地域別(7地域)で実施。ただし、市街化区域と市街化調整区域では課題認識などが異なると考え、「黄檗地域」の志津川、「宇治地域」の白川については別途で実施。

※意見交換会については、ファシリテーターとして学識経験者や大学生の参加も検討。

※参加方法はコロナの感染状況によっては事前申込制や先着制など検討が必要。

※オープンハウスの情報は意見交換会で発表するとともにホームページにも公表し来場できない方にも

意見の機会を設ける。

③ 次期都市計画マスタープラン : ・パブリックコメント(R3.12～R4.1)